

## (2024) 1級試験用レジュメ② [大白蓮華]

※ このレジュメは、『大白蓮華 6月号』（「青年教学試験 1級」研鑽のために）のうち、出題されそうな部分を抽出したものです。「大白〇頁」との記載は、同書のページ数です。

### ◎佐渡御書

#### 本抄の背景と大意（大白72頁～）

「佐渡御書」は、日蓮大聖人が文永9年3月20日、佐渡の塚原で著され、広く門下一同に与えられたお手紙である。大聖人は、前年の文永8年9月12日、鎌倉で「竜の口の法難」に遭い、その後、佐渡に配流された。（中略）大聖人は、難に動揺する門下のことを心配され、彼らの疑念を晴らすために、文永9年2月に「開目抄」を完成された。「佐渡御書」は、内容的にも、この「開目抄」の結論部分を簡潔にまとめられた御書であるとも拝される。また、同年2月に、鎌倉と京都で、北条氏同士の戦い（二月騒動）が起こった。その知らせを受けて著されたのが本抄である。

（例題）佐渡御書について、次の問に答えなさい。

- イ. 佐渡御書は大聖人が、①いつ、②どこで著され、③誰に与えられたお手紙ですか。  
ロ. 大聖人が『立正安国論』で予言し、佐渡御書を著された前の月に起きた自界叛逆難は何ですか。

（解答）イ. ①文永9年3月20日 ②佐渡の塚原 ③門下一同 ロ. 二月騒動

### 第2章（不惜身命の信心を勧める）

#### ◎出題されそうな御文（大白74頁～）

- ① 雪山童子の身をなげし、楽法梵志が身の皮をはぎし、身命に過ぎたる惜しきものなれば、これを布施として仏法を習えば必ず仏となる。身命を捨つる人、他の宝を仏法に惜しむべしや。
- ② 魚は命を惜しむ故に、池にすむに池の浅きことを歎いて、池の底に穴をほりてすむ。しかれども、えにばかされて釣をのむ。鳥は木にすむ。木のひききことをおじて、木の上枝にすむ。しかれども、えにばかされて網にかかる。人もまたかくのごとし。世間の浅きことには身命を失えども、大事の仏法などには捨つること難し。故に仏になる人もなかるべし。

（例題）「の身をなげし、が身の皮をはぎし、に過ぎたる惜しきものなれば、これを布施として仏法を習えば必ずとなる。身命を捨つる人、他の宝を仏法に惜しむべしや。」に入る正しい言葉を書きなさい。

（解答）（順に）雪山童子、楽法梵志、身命、仏

（例題）「魚は命を惜しむ故に、池にすむに池の浅きことを歎いて、池の底に穴をほりてすむ。しかれども、えにばかされて釣をのむ。鳥は木にすむ。木のひききことをおじて、木の上枝にすむ。しかれども、えにばかされて網にかかる。」大聖人がこの御文を譬えとして述べた、成仏の難しさについての御文を書きなさい。

（解答）世間の浅きことには身命を失えども、大事の仏法などには捨つること難し。故に仏になる人もなかるべし。

### 第3章 (折伏こそ時機に適う修行と明かす)

#### ◎出題されそうな御文 (大白78頁～)

- ① 仏法は摂受・折伏時によるべし。譬えば、世間の文武二道のごとし。されば、昔の大聖は時によりて法を行ず。
- ② 悪王の正法を破るに、邪法の僧等が方人をなして智者を失わん時は、師子王のごとくなる心をもてる者、必ず仏になるべし。例せば日蓮のごとし。これおごれるにはあらず。正法を惜しむ心の強盛なるべし。
- ③ 正法は、一字一句なれども、時機に叶いぬれば必ず得道なるべし。千経万論を習学すれども、時機に相違すれば叶うべからず。

(例題) 不惜身命の精神は同じであっても、実践の仕方は「時」に応じて違いがあることを示された御文を挙げなさい。

(解答) 仏法は摂受・折伏時によるべし。

(例題) 「悪王の□を破るに、□の僧等が方人をなして□を失わん時は、□のごとくなる心をもてる者、必ず□になるべし。例せば□のごとし。これおごれるにはあらず。□の強盛なるべし。」 □に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 正法、邪法、智者、師子王、仏、日蓮、正法を惜しむ心

(例題) 「正法は、□なれども、□に叶いぬれば必ず得道なるべし。□を習学すれども、□すれば叶うべからず。」 □に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 一字一句、時機、千経万論、時機に相違

### 第4章 (自界叛逆難の予言的中を挙げる)

#### ◎出題されそうな御文 (大白82頁～)

- ① 外道・悪人は如来の正法を破りがたし。仏弟子等、必ず仏法を破るべし。「師子身中の虫の師子を食む」等云々。
- ② 日蓮は聖人にあらざれども、法華経を説のごとく受持すれば聖人のごとし。また世間の作法兼ねて知るによって注し置くこと、これ違ふべからず。現世に云いおく言の違わざらんをもって、後生の疑いをなすべからず。
- ③ 日蓮は、この関東の御一門の棟梁なり、日月なり、亀鏡なり、眼目なり。日蓮捨て去る時、七難必ず起こるべしと、去年九月十二日、御勘気を蒙りし時、大音声を放つてよばわりしこと、これなるべし。
- ④ 日蓮、当世にはこの御一門の父母なり、仏・阿羅漢のごとし。しかるを、流罪し、主従共に悦びぬる。
- ⑤ 既に一門を亡ぼす大鬼のこの国に入るなるべし。法華経に云わく「悪鬼はその身に入る」、これなり。

(例題) 「□は如来の正法を破りがたし。□等、必ず仏法を破るべし。『□の□を食む』等云々。」 □に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 外道・悪人、仏弟子、師子身中の虫、師子

(例題) 「日蓮は□にあらざれども、□を説のごとく受持すれば聖人のごとし。また世間の作法兼ね

て知るによって注し置くこと、これ違ふべからず。□に云いおく言の違わざらんをもって、□の疑いをなすべからず。」この御文について、次の間に答えなさい。

イ. □に入る言葉を答えなさい。

ロ. 下線部は、大聖人が□で予言した自界叛逆難が的中して、□が起きたことを述べています。□に入る言葉を答えなさい。

(解答) イ. (順に) 聖人、法華経、現世、後生    ロ. (順に) 立正安国論、二月騒動

(例題) 「日蓮は、イこの関東の御一門の棟梁なり、日月なり、亀鏡なり、眼目なり。日蓮捨て去る時、ロ七難必ず起こるべしと、ハ去年九月十二日、御勘気を蒙りし時、大音声を放つてよばわりしこと、これなるべし。」この御文について、次の間に答えなさい。

イ. 下線部イは、この御文の後で述べられる「日蓮、当世にはこの御一門の父母なり」(親の徳)と相俟<sup>あいま</sup>って、大聖人が主・師・親の三徳を具えた仏であることを示されています。「棟梁」「日月」「亀鏡」「眼目」のうち、どれが主の徳で、どれが師の徳か、答えなさい。

ロ. 下線部ロの七難のうち、佐渡御書を著される前の月に起きた難を答えなさい。

ハ. 下線部ハの御勘気とは、何ですか。その名前を答えなさい。

(解答) イ. 主の徳…棟梁、師の徳…日月・亀鏡・眼目    ロ. 自界叛逆難    ハ. 竜の口の法難

(例題) 「既に一門を亡ぼす大鬼のこの国に入るなるべし。法華経に云わく□、これなり。」□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) 「悪鬼はその身に入る」

## 第5章 (留難も先業によるを明かす)

### ◎出題されそうな御文 (大白86頁～)

① 日蓮もまた、かくせめらるるも、先業なきにあらず。不軽品に云わく「その罪は畢え已わって」等云々。

② 心は法華経を信ずる故に梵天・帝釈をもなお恐ろしと思わず。身は畜生の身なり。色心不相応の故に、愚者のあなずる道理なり。

③ 鉄は炎い打てば剣となる。賢聖は罵詈して試みるなるべし。我、今度の御勘気は、世間の失一分もなし。ひとえに、先業の重罪を今生に消して、後生の三悪を脱れんずるなるべし。

(例題) 「日蓮もまた、かくせめらるるも、□なきにあらず。不軽品に云わく□等云々。」□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 先業、その罪は畢え已わって

(例題) 「心は法華経を信ずる故に梵天・帝釈をもなお恐ろしと思わず。身は①の身なり。②の故に、愚者のあなずる道理なり。」この御文について、次の間に答えなさい。

イ. 下線部は、大聖人御自身の□としての御境地を述べています。□に入る言葉を答えなさい。

ロ. ①②に入る言葉を答えなさい。

(解答) イ. 法華経の行者    ロ. ①畜生、②色心不相応

(例題) 「鉄は炎い打てば剣となる。□は□して試みるなるべし。我、今度の□は、□一分もなし。ひとえに、先業の□を今生に消して、後生の□を脱れんずるなるべし。」□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 賢聖、罵詈、御勘氣、世間の失、重罪、三悪

## 第7章 (謗法の罪報を今世に転ずるを明かす)

### ◎出題されそうな御文 (大白90頁～)

- ① …および余の種々の人間の苦報あらん。現世に軽く受くるは、これ護法の功德力に由るが故なり
- ② …これは常の因果の定まれる法なり。日蓮はこの因果にはあらず。法華經の行者を過去に輕易せし故に、法華經は、月と月とを並べ、星と星とをつらね、華山に華山をかさね、玉と玉とをつらねたるがごとくなる御經を、あるいは上げ、あるいは下して嘲弄せし故に、この八種の大難に値えるなり。この八種は、尽未来際が間一つずつこそ現ずべかりしを、日蓮つよく法華經の敵を責むるによって一時に聚め起こせるなり。(中略)「これ護法の功德力に由るが故なり」等はこれなり。

(例題) 「種々の人間の苦報あらん。現世に軽く受くるは、これ□□に由るが故なり」この御文について、次の問に答えなさい。

イ. 下線部のように、過去世の宿業の報いを現世で軽く受けることを何といいますか。漢字4文字で答えなさい。

ロ. □□に入る言葉を答えなさい。

(解答) イ. 転重軽受    ロ. 護法の功德力

(例題) 「日蓮はイこの因果にはあらず。ロ法華經の行者を過去に輕易せし故に」この御文について、次の問に答えなさい。

イ. 下線部イは般泥洹經で説かれる種々の因果応報を指していますが、この御書では、これらの因果応報をまとめて□□の因果と呼ばれています。□□に入る言葉を答えなさい。

ロ. 下線部ロについて、この御書で大聖人は、最高の教えである法華經を過去世にどのように輕易した故であると述べていますか。具体的に答えなさい。

(解答) イ. 常    ロ. あるいは上げ、あるいは下して嘲弄した。

## 第8章 (自身の滅罪と誹謗者の造業を示す)

### ◎出題されそうな御文 (大白95頁～)

- 日蓮は過去の不軽のごとく、当世の人々は彼の輕毀の四衆のごとし。人は替われども因はこれ一なり。

(例題) 「日蓮は過去の□□のごとく、当世の人々は彼の□□の四衆のごとし。人は替われども□□はこれ一なり。」□□に入る正しい言葉を書きなさい。

(解答) (順に) 不軽、輕毀、因

## 第9章 (愚癡の門下を戒める)

### ◎出題されそうな御文 (大白98頁～)

- ① 日蓮を信ずるようなりし者どもが、日蓮がかくなれば、疑いをおこして法華經をすつるのみならず、かえりて日蓮を教訓して我賢しと思わん僻人等が、念仏者よりも久しく阿鼻地獄にあらんこと、不便とも申すばかりなし。
- ② 「日蓮御房は師匠にてはおわせども余りにこわし。我らはやわらかに法華經を弘むべ

し」と云わんは、<sup>い</sup>螢火が<sup>ほたるび</sup>日月を<sup>にちがつ</sup>わらい、<sup>笑</sup>蟻塚が<sup>ありづか</sup>華山を<sup>かざん</sup>下し、<sup>くだ</sup>井江が<sup>せいこう</sup>河海を<sup>かかい</sup>あなずり、<sup>侮</sup>鳥<sup>かさ</sup>鵲が<sup>さぎ</sup>鸞鳳を<sup>らんほう</sup>わらうなるべし、<sup>笑</sup>わらうなるべし。

(例題) 「を信ずるようなりし者どもが、①日蓮が<sup>かくなれば</sup>疑いをおこしてをすつるのみならず、②かえりて日蓮を教訓して我賢しと思わん僻人等が、よりも久しくにあらんこと、不便とも申すばかりなし。」この御文について、次の問に答えなさい。

イ. に入る言葉を答えなさい。

ロ. 下線部①が指す、大聖人が遭われた法難を答えなさい。

ハ. 下線部②の僻人等は、自己の退転を正当化するために大聖人を批判し、他の門下をも退転させました。そのため大聖人は、初めから正法を信じることなく誹謗する人間よりも罪が重いと述べられています。こうした僻人等の仏法上の罪は、五逆罪のうちの1つです。その罪を答えなさい。

(解答) イ. (順に) 日蓮、法華経、念仏者、阿鼻地獄　ロ. 佐渡流罪　ハ. 破和合僧の罪

(例題) 『日蓮御房はにてはおわせども余りにこわし。我らはやわらかにを弘むべし』と云わんは、が日月をわらい、が華山を下し、が河海をあなずり、が鸞鳳をわらうなるべし、わらうなるべし。」に入る言葉を答えなさい。

(解答) (順に) 師匠、法華経、螢火、蟻塚、井江、鳥鵲

## ◎創価学会の宗教改革（日顕宗を破す）

### ○ 宗門事件の経過

(例題) 次の説明文のに入る正しい言葉を書きなさい。

イ. 「第1次宗門事件は、1977年（昭和52年）ごろから、等で、僧侶による理不尽な学会批判が繰り返された事件です。池田先生は、その攻撃から会員を守り、を<sup>はか</sup>図るため、年4月に会長を辞任して名誉会長となり、事態を收拾しました。」

ロ. 「第2次宗門事件は、が管長だった宗門が、年月27日に宗規を改定して池田先生のを<sup>ひめん</sup>罷免し、1991年（平成3年）11月28日に創価学会になる文書を送付するなどした一連の事件です。学会では、この11月28日をと意義づけています。」

(解答) イ. (順に) 宗門の末寺、僧俗和合、1979（昭和54）

ロ. (順に) 日顕、1990（平成2）、12、法華講総講頭、破門通告書、魂の独立記念日

### ○ 「人間のための宗教」へ

#### 1. 万人に開かれた仏法

#### ◎引用されている御文（大白104頁）

① この世の中の男女僧尼は嫌うべからず

② 僧も俗も、尼も女も、一句をも人にかたらん人は如来の使いと見えたり

(例題) 日顕宗の相続差別の誤りを、御書の御文を用いて破折しなさい。

(解答例) 御書に「この世の中の男女僧尼は嫌うべからず」と仰せのように、仏法を實踐する上で男女の差別も出家者と在家者の差別も存在しません。

(解答例) 御書に「僧も俗も、尼も女も、一句をも人にかたらん人は如来の使いと見えたり」と仰せのように、広宣流布の實踐に励む人は皆、等しく尊き仏の使いであって、地位や立場で人

間を差別するのは大聖人の仏法ではありません。

## 2. 「心こそ大切なれ」

◎引用されている御文（大白104頁）

- ① ただ心こそ大切なれ。いかに日蓮いのり申すとも、不信ならば、ぬれたるほくちに火をうちかくるがごとくなるべし。はげみをなして強盛に信力をいだし給うべし
- ② 信心の血脈なくんば、法華経を持つとも無益なり

（過去問）日蓮宗の誤った血脈観を、御書の御文を用いて破折しなさい。

（解答例）御書に「信心の血脈なくんば、法華経を持つとも無益なり」と仰せのように、大聖人は、血脈の本質とは信心であると示されている。

（例題）次の説明文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

「日蓮正宗（日蓮宗）が法主だけに流れ通う□な血脈が存在するなどどうそぶいているのは、法主の□を正当化し、信徒を□するための邪義にすぎません。」

（解答）（順に）神秘的、絶対性、隷属化

## 3. 異体同心の団結

◎引用されている御文（大白105頁）

- ① 「大願」とは、法華弘通なり
- ② 日蓮が弟子檀那等、自他・彼此の心なく、水魚の思いを成して、異体同心にして南無妙法蓮華経と唱え奉る
- ③ 広宣流布の大願

（過去問）日蓮が、世界広宣流布を推進する創価学会の破壊を企てたことは、「五逆罪」の何にあたるか、その大罪の名前を書きなさい。

（解答）破和合僧

（例題）「総じて、日蓮が弟子檀那等、自他・彼此の心なく、水魚の思いを成して、□にして南無妙法蓮華経と唱え奉るところを、生死一大事の□とは云うなり。しかも、今、日蓮が弘通するところの所詮これなり。もししからば、□の大願も叶うべきものか。」この御文について、次の問に答えなさい。

イ. □に入る正しい言葉を書きなさい。

ロ. 下線部の「大願」について、大聖人は別の御書では「大願とは□弘通なり」と仰せです。この□に入る正しい言葉を書きなさい。

（解答）イ.（順に）異体同心、血脈、広宣流布　ロ. 法華

## 4. 仏教の本義に基づく葬儀等

◎引用されている御文（大白105頁）

- 今、日蓮等の類い、聖霊を訪う時、法華経を読誦し南無妙法蓮華経と唱え奉る時、題目の光無間に至って即身成仏せしむ。回向の文、これより事起こるなり

（過去問）“僧侶を呼ばない葬儀では故人が成仏しない”などと言っている日蓮宗の邪義を、大聖人の仏法の法理に基づいて破折しなさい。

(解答例) 日蓮大聖人は、「今、日蓮等の類い、聖霊を訪う時、法華経を読誦し南無妙法蓮華経と唱え奉る時、題目の光無間に至って即身成仏せしむ。回向の文、これより事起こるなり」と仰せです。友人・同志が真心の題目を唱え、その功德を故人に回らし向けることが、故人に対する最高の追善となるのであって、大聖人は“僧侶を呼ばない葬儀では故人が成仏しない”などとは一切言われていません。

(例題) 次の説明文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

「宗門と決別して以降、創価学会では、□に則った葬儀が定着しています。それが、友人・同志が真心の題目で故人を送る□です。僧侶による法要、戒名、塔婆なども□が定めたものではなく、のちの時代にできた慣習です。日蓮正宗は、これらを□に利用しているにすぎないのです。」

(解答) (順に) 仏教の本義、友人葬、大聖人、供養集め

## 5. 人間を強く善く賢くする

◎引用されている御文 (大白106頁)

○ しかず、彼の<sup>か</sup>万<sup>ばん</sup>祈<sup>き</sup>を修<sup>しゆ</sup>せんよりは、この<sup>いっきよう</sup>一<sup>きん</sup>凶<sup>きん</sup>を禁<sup>きん</sup>ぜんには (立正安国論)

(過去問) 創価学会は、大聖人の仰せの通りに、極悪・日顕宗を破折してきました。なぜ悪との戦いが必要なのか。御文を用いて簡潔に記しなさい。

(解答例) 大聖人が立正安国論で「しかず、彼の万祈を修せんよりは、この一凶を禁ぜんには。」と仰せのとおり、正法に違背する悪(一凶)を根絶することが自他共の幸福を実現するために不可欠だから。

(過去問) 「日蓮と(イ)ならば地涌の菩薩たらんか」との仰せ通りに広宣流布を推進してきた創価学会を破門した日顕宗は、五逆罪で言えば、(ロ)にあたります。私たちは「しかず、彼の万祈を修せんよりは、この(ハ)を禁ぜんには」との精神で、日顕宗を破折するのです。イ～ハに当てはまる正しい言葉を書きなさい。

(解答) イ、同意      ロ、破和合僧      ハ、一凶

(例題) 次の説明文の□に入る正しい言葉を書きなさい。

「法華経は、誰人にも等しく□が内在しているという、最も普遍的な『□』『万人尊敬』の思想を説いています。ゆえに、日蓮大聖人は法華経を軽んじる誤った思想との闘争を貫かれました。池田先生は、1993年9月にハーバード大学で講演を行い、宗教を見極める基準について言及しました。宗教をもつことが、人間を『□』するのか、弱くするのか』『□』するのか、悪くするのか』『□』するのか、愚かにするのか』と。まさに、日蓮大聖人の仏法は、人間を強く、善く、賢くする『□』のための宗教』です。そして、その日蓮仏法を、大聖人の御精神のままに正しく現代に実践し、展開しているのが□なのです。」

(解答) (順に) 仏の生命、生命尊厳、強く、善く、賢く、人間、創価学会

以上